

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2017/05/02

くすぶるECBの引き締め観測

通貨ペア	基調		ページ数
ユーロ/円	↑	窓がトレンド転換を示唆 予想レンジ: 118.800~125.200円	2-3
ユーロ/ドル	↑	政治的イベント通過後はECBに注目 予想レンジ: 1.06700~1.12000ドル	4-5
ポンド/円	→	ショートカバーだけでは力不足か 予想レンジ: 140.000~150.000円	6-7
ポンド/ドル	→	スーパー・サズデーがカギ 予想レンジ: 1.26000~1.31500ドル	8-9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

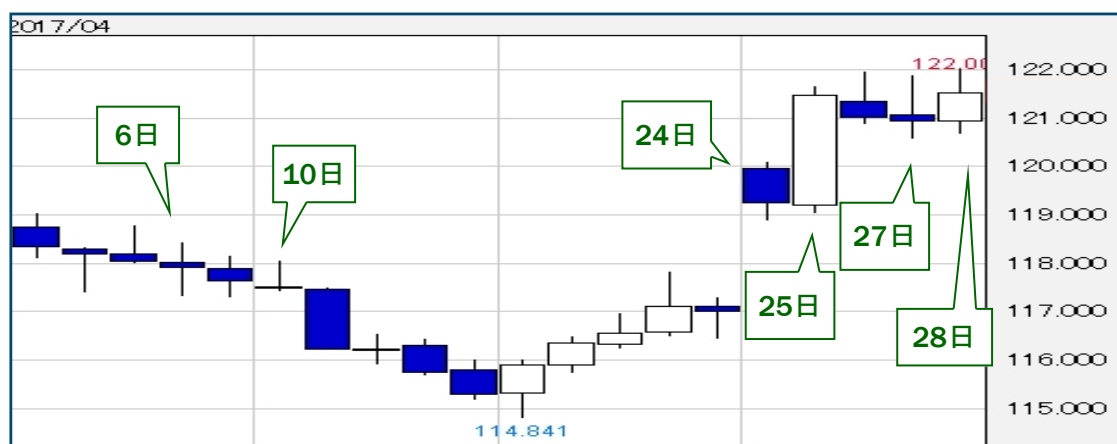
ユーロ/円 4月の推移

EUR/JPY

4月のユーロ/円相場は114.841～122.002円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.4%の上昇(ユーロ高・円安)となった。

仏大統領選第1回投票を前に、反欧州連合(EU)候補同士の決戦投票になるとのリスクシナリオが浮上しユーロは軟調に推移。17日に2016年11月以来の安値となる、114.841円まで下落した。地政学的リスク(シリア情勢、北朝鮮情勢)も重石となった。

しかし、その後は仏大統領選の決戦投票でリスクシナリオが回避されたことからユーロ買いが活発化した。25日に北朝鮮に対する懸念が和らいで円売りが優勢となった事も、ユーロ/円の上昇を後押し。28日のユーロ圏のインフレ指標が予想を上回る伸びとなると、約1カ月ぶりに122円台を回復した。



四本値

OPEN	118.758
HIGH	122.002
LOW	114.841
CLOSE	121.538

6日	欧州中銀(ECB)のドラギ総裁が「フォワードガイダンスの文言からそれる必要はない」「政策スタンスを変更するためにはインフレに対するさらなる自信が必要」「インフレの見直しを変える十分な確証がない」などと発言。これを受けてECBの出口戦略に対する思惑が後退してユーロ売りが優勢となった。なお、公表されたECB理事会議事録では「フォワードガイダンスを維持する事で一致」「賃金上昇がインフレ見通しの鍵」などが明らかとなった。また、コンスタンシオECB副総裁は「インフレに打ち勝ったと宣言するのは早すぎる」と発言した。
10日	仏大統領選(第1回目、4月23日)に関する世論調査によると、各候補の支持率は極右ルペン候補が24%(前回比-0.5%)、中道マクロン候補は23%(同-0.5%)、右派フィヨン候補は18.5%(同±0.0%)、急進左派メラション候補は18%(同+1.0%)と「四つどもえ」の様相となった。これを受けて仏国債や仏株が下落するとともにユーロ売りが強まった。
24日	日本時間23日に投票が締め切られた仏大統領選第1回投票の出口調査で、中道・独立系マクロン候補と極右・国民戦線党首ルペン候補が5月7日の決選投票に進む事がほぼ確実となった。反EUを掲げる候補同士の決選投票が避けられた事から、欧州政局リスクが後退。ユーロ/円は前週終値(117.027円)から3円近く急騰して始まった。
25日	北朝鮮軍創設85周年で(市場が懸念していた)核実験やミサイル発射が実施されなかった事から、東アジアの地政学的リスクが和らぎ、円売りが優勢となった。その後「一部のECB当局者が、仏大統領選でユーロ懐疑派の候補2人による決選投票のリスクがなくなったことを背景に、6月に景気刺激策の縮小について若干のシグナルを送る余地があると見ている」との報道を受け、ユーロ買いが強まった。これらを受けてユーロ/円は大きく上昇した。
27日	4月ユーロ圏景況感指数は109.6(予想:108.2)と、2007年8月以来の高水準となった。ECB理事会(金融政策は据え置き)後にドラギ総裁は会見で「経済の下振れリスクは一段と後退」との見方を示すと、ユーロ/円は121.883円まで急上昇。しかし、「フォワードガイダンスの変更、議論せず」「6月の選択肢についても議論していない」と発言すると急反落した。
28日	ユーロ圏4月消費者物価指数・速報は前年比+1.9%と予想(同+1.8%)を上回った。また、コア指数は前年比+1.2%(予想:+1.0%)と2013年6月以来の高水準となった。これらを受け、ユーロ買いが優勢となった。

EUR/JPY

日 経 平 均

OPEN	18988.00
HIGH	19289.43
LOW	18224.68
CLOSE	19196.74

独 D A X

OPEN	12368.82
HIGH	12486.29
LOW	11941.57
CLOSE	12438.01

独2年債利回

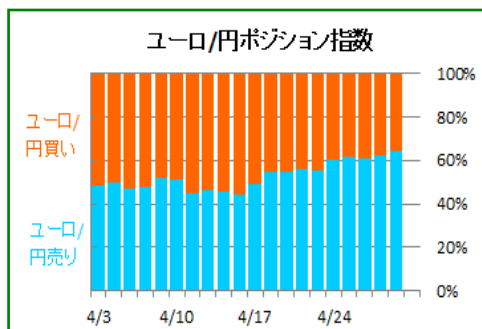
OPEN	-0.749%
HIGH	-0.670%
LOW	-0.875%
CLOSE	-0.733%

独10年債利回

OPEN	0.326%
HIGH	0.396%
LOW	0.156%
CLOSE	0.317%

4月のポジション動向

5月のユーロ圏の注目イベント



- ・1-3月期ユーロ圏GDP・速報値(3日)
- ・3月ユーロ圏小売売上高(4日)
- ・フランス大統領選挙決選投票(7日)
- ・1-3月期独GDP・速報値(12日)
- ・5月独/ユーロ圏ZEW景気期待指数(16日)
- ・5月独Ifo景況感指数(23日)
- ・5月独/ユーロ圏製造業PMI・速報(24日)
- ・5月独消費者物価指数・速報値(30日)
- ・5月ユーロ圏消費者物価指数・速報値(31日)

5月の見通し

月間指標カレンダー(外部リンク)

ユーロ/円相場は先月114円台まで下落するも、24日に窓を開けて切り返した。この窓は一般的に「ブレイクアウェイギャップ」と呼ばれ、新たなトレンドが始まった事を示すとされる。先月28日に約1カ月半ぶりに122円台に乗せたことで、上値余地が拡大した公算である。直近高値(3月13日高値122.883円や2016年12月15日高値124.081円)が上値目処として上げられるが、これらを突破すると月足の一目均衡表の基準線(執筆時125.124円)に向けた一段高もあるだろう。

経済イベントについて、仏大統領選決選投票を通過すると、市場の関心はECBの次の一手に集まりそうだ。次回理事会(6月8日)は1カ月先ではあるが、4月景況感指数が約10年ぶり高水準となったほか、4月インフレ率がECB目標(2%弱)をほぼ達成するなど、景気回復と同時にインフレが進行している。こうした中、経済指標やインフレ指標が予想を上回る結果となれば、ECBの金融引き締めへの思惑につながりやすい。現在のECB役員メンバー(6名)は、ラウテンシュレーガー理事を除きハト派が多い。もしハト派と目される理事から金融引き締めについての発言が相次ぐようならば、6月のECB理事会に向けてユーロ買いが優勢となる事も考えられる。(川畑)

(予想レンジ:118.800~125.200円)

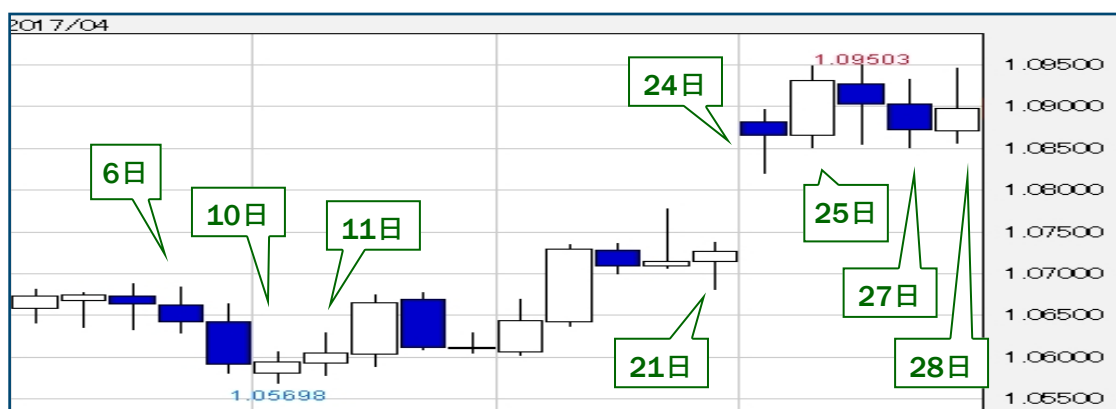
ユーロ/ドル 4月の推移

EUR/USD

4月のユーロ/ドル相場は1.05698～1.09503ドルのレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.2%の上昇(ユーロ高・ドル安)となった。

序盤は、欧州中銀(ECB)のドラギ総裁が早期金融引き締め観測の火消しに動いた事から、ユーロは軟調に推移。仏大統領選第1回投票を前に、反欧州連合(EU)候補同士が決選投票に進むとのリスクシナリオが浮上した事も重石となった。

しかし、その後は仏大統領の決選投票選でリスクシナリオが回避されたことからユーロ買いが活発化。26日に2016年11月以来の高値となる1.0950ドル台まで一段高となった。



四本値

OPEN	1.06584
HIGH	1.09503
LOW	1.05698
CLOSE	1.08985

6日	ドラギECB総裁が「フォワードガイダンスの文言からそれる必要はない」「政策スタンスを変更するためにはインフレに対するさらなる自信が必要」「インフレの見通しを変える十分な確証がない」などと発言。これを受けてECBの出口戦略に対する思惑が後退してユーロ売りが優勢となった。なお、公表されたECB理事会議事録では「フォワードガイダンスを維持する事で一致」「賃金上昇がインフレ見通しの鍵」などが明らかとなった。また、コンスタンシオECB副総裁は「インフレに打ち勝ったと宣言するのは早すぎる」と発言した。
10日	仏大統領選(第1回目、4月23日)に関する世論調査によると各候補の支持率は、極右ルペン候補24%(前回比-0.5%)、中道マクロン候補23%(同-0.5%)、右派フィヨン候補18.5%(同±0.0%)、急進左派メラション候補18%(同+1.0%)と「四つどもえ」の様相となった。これを受けて仏国債や仏株が下落するとともにユーロ売りが強まった。
11日	独4月ZEW景気期待指数が19.5と予想(14.8)を上回り、前月(12.8)から上昇。また、ユーロ圏4月ZEW景気期待指数も26.3と前月(25.6)を上回った。
21日	独4月製造業PMI・速報は58.2、ユーロ圏4月製造業PMI・速報は56.8と、いずれも予想(58.0、56.0)を上回った。ただ、23日の仏大統領選第1回投票を前に反応は薄かった。
24日	日本時間23日に投票が締め切られた仏大統領選第1回投票の出口調査で、中道・独立系マクロン候補と極右・国民戦線党首ルペン候補が5月7日の決選投票に進む事がほぼ確実となった。反EU候補による決選投票が回避された事から、欧州政局リスクが後退し、ユーロ買いが強まった。
25日	「一部のECB当局者が、仏大統領選でユーロ懐疑派の候補2人による決選投票のリスクがなくなったことを背景に、6月に景気刺激策の縮小について若干のシグナルを送る余地があると見ている」との報道を受け、ユーロ買いが強まった。
27日	4月ユーロ圏景況感指数は109.6(予想:108.2)と、2007年8月以来の高水準となった。ECB理事会(金融政策は据え置き)後のドラギ総裁会見で「経済の下振れリスクは一段と後退」との見方が示されると、ユーロ/ドルは上昇。しかし、「フォワードガイダンスの変更、議論せず」「6月の選択肢についても議論していない」と発言すると急反落した。
28日	ユーロ圏4月消費者物価指数・速報は前年比+1.9%と予想(同+1.8%)を上回った。また、コア指数は前年比+1.2%(予想: +1.0%)と2013年6月以来の高水準となった。これらを受け、ユーロ買いが優勢となった。

EUR/USD

NYダウ平均

OPEN	20665.17
HIGH	21070.90
LOW	20379.55
CLOSE	20940.51

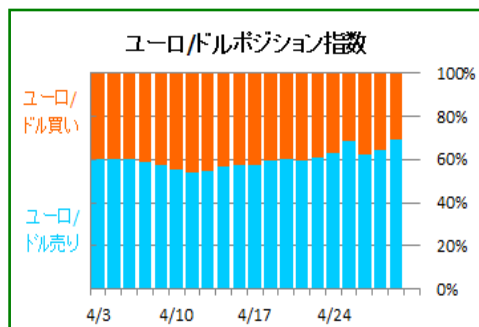
独10年債利回

OPEN	0.326%
HIGH	0.396%
LOW	0.156%
CLOSE	0.317%

米10年債利回

OPEN	2.3928%
HIGH	2.4036%
LOW	2.1629%
CLOSE	2.2802%

4月のポジション動向



5月のユーロ圏の注目イベント

- ・1-3月期ユーロ圏GDP・速報値(3日)
- ・3月ユーロ圏小売売上高(4日)
- ・フランス大統領選挙決選投票(7日)
- ・1-3月期独GDP・速報値(12日)
- ・5月独/ユーロ圏ZEW景気期待指数(16日)
- ・5月独Ifo景況感指数(23日)
- ・5月独/ユーロ圏製造業PMI・速報(24日)
- ・5月独消費者物価指数・速報値(30日)
- ・5月ユーロ圏消費者物価指数・速報値(31日)

5月の見通し

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

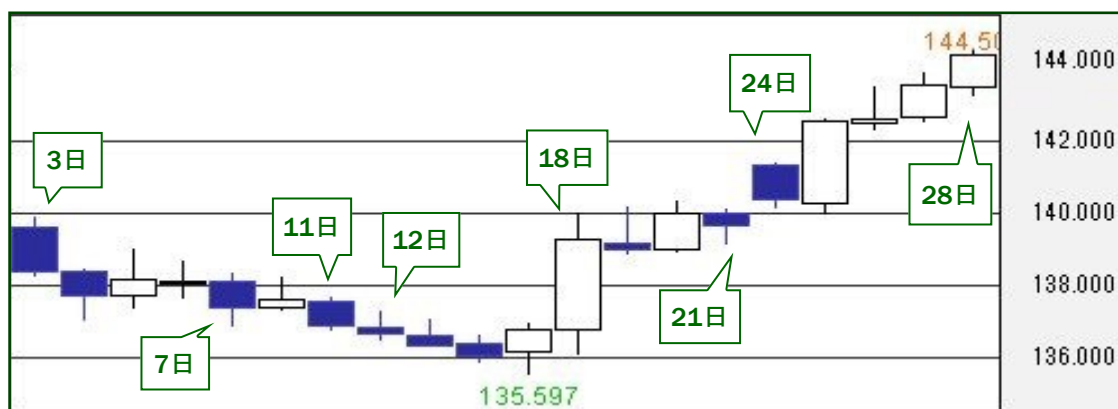
今月7日に、仏でマクロン氏(中道)とルペン氏(極右)による大統領選の決選投票が行われる。5月1日に仏世論調査会社Ifoが行った世論調査結果によると、決選投票の支持率はマクロン氏59%、ルペン氏41%となっている。親EU派のマクロン氏が勝利する結果となれば、3月のオランダ総選挙に続いて欧州政局に対する不透明感が後退してユーロ買い要因となろう。その後は、市場の関心はECBの次の一手に関心が集まりそうだ。4月25日にECB当局者の話として6月理事会での(金融引き締め方向への)文言変更を示唆したが、翌26日にドラギ総裁はこの観測報道を打ち消している。とはいえ、4月景況感指数が約10年ぶり高水準となったほか、4月インフレ率がECB目標(2%弱)をほぼ達成している事から、市場に引き締め観測がくすぶり続けている。インフレ率や経済指標が予想を上回る結果となれば、ECBの金融引き締め観測を絡めてユーロ買い圧力が強まりそうだ。ユーロ/ドルは週足の一目均衡表の雲上限(今月は1.1060ドル前後)を突破すると、2016年11月高値(1.12989ドル)まで主だった目処が見当たらない。1.11ドルちょうど等の心理的節目が機能するか注目したい。(川畑)

(予想レンジ: 1.06700~1.12000ドル)

GBP/JPY

ポンド/円 4月の推移

4月のポンド/円相場は135.597～144.500円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約3.2%もの大幅な上昇(ポンド高・円安)となった。前半は、北朝鮮・シリアの地政学リスクが重しとなり、17日には約5カ月ぶり安値となる135.597円まで下落した。しかし、英国のメイ首相が6月に前倒しで総選挙を行うと発表すると流れが一変。選挙によってメイ政権の基盤が強まり、欧州連合(EU)との離脱交渉が英国の有利に進むとの楽観的な見方に繋がりポンド買いが強まった。その後も、23日の仏大統領選で反EU勢力の拡大が見られなかった事や25日の北朝鮮軍創設記念日に軍事衝突が起きなかった事などが支えとなり、28日には約3カ月ぶりの高値となる144.500円まで反発した。



四本値

OPEN	139.636
HIGH	144.500
LOW	135.597
CLOSE	144.380

3日	英3月製造業PMIが54.2と予想(55.0)に反して前回(54.5)から低下するとポンド売りが優勢となった。その後、ロシア・サンクトペテルブルクで地下鉄爆発事故が発生した事などを受けて米国株が下落する中、138円台前半へ下落した。
7日	「米国がシリアを攻撃」との報道を受けてリスク回避の円買いが活発化。英2月鉱工業生産が前月比-0.7%、前年比+2.8%と、予想(+0.2%、+3.7%)を大きく下回るとポンド売りが強まり、一時137円台を割り込んだ。
11日	英3月消費者物価指数が前月比+0.4%、前年比+2.3%(予想:+0.3%、+2.3%)、英3月生産者物価指数が前年比+3.6%(同:+3.4%)と発表されると一時ポンド買いが優勢となった。しかし、北朝鮮やシリアなど地政学リスクがくすぶる中で上昇は続かず、136円台に反落した。
12日	英3月雇用統計は、失業率2.2%、失業者数2.55万人増といずれも前月(2.1%、0.61万人減)から悪化した。しかし、市場は12-2月の週平均賃金が前年比+2.3%と市場予想(+2.2%)を上回った事を重視してポンド買いで反応。ただ、トランプ米大統領が「ドルは強すぎる」と発言した事を受けてドル/円が下落した動きにつれてポンド/円も終盤に反落した。
18日	日本時間19時にメイ英首相が記者会見を行うとの報道をきっかけに、同首相が健康問題で辞任するとの思惑からポンド売りに傾いた。しかし「メイ首相は6月8日に総選挙実施の意向」と報じられると一転してポンド買いが優勢となった。その後、メイ首相は「EU離脱路線を変更できると反対派が考えるのは誤り」「今後の安定を保障するには総選挙前倒しが唯一の方法」などと述べた。
21日	英3月小売売上高が前月比-1.8%と予想(-0.5%)を大幅に下回るとポンド売りが優勢となった。
24日	仏大統領選(第1回投票)の出口調査で、中道・独立系マクロン候補と極右・国民戦線党首ルペン候補の勝ち抜けがほぼ確実となり、反EU候補同士(ルペンVSメランション)の決選投票が避けられた事などから、欧州政治リスクへの懸念が後退。ポンド/円はユーロ/円の急伸につれて取引開始と同時に141円台へ上伸した。
28日	英1-3月期国内総生産(GDP)・速報値は前期比+0.3%、前年比+2.1%となり、市場予想(+0.4%、+2.2%)に届かなかった。しかし、ポンドの下値は堅く、NY市場に入るとショートカバーと見られる動きが強まり144.500円まで上昇して3カ月ぶりの高値を付けた。

GBP/JPY

日経平均

OPEN	18988.00
HIGH	19289.43
LOW	18224.68
CLOSE	19196.74

FTSE100

OPEN	7322.92
HIGH	7406.35
LOW	7096.83
CLOSE	7203.94

英2年債利回

OPEN	0.115%
HIGH	0.151%
LOW	0.061%
CLOSE	0.075%

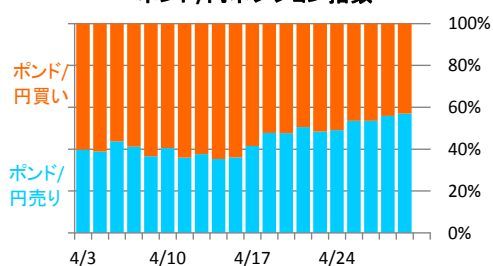
英10年債利回

OPEN	1.132%
HIGH	1.146%
LOW	0.998%
CLOSE	1.085%

4月のポジション動向

5月の英国の注目材料

ポンド/円ポジション指数



- ・4月英製造業PMI(2日)
- ・4月英建設業PMI(3日)
- ・4月英サービス業PMI(4日)
- ・3月英貿易収支(11日)
- ・3月英鉱工業生産(11日)
- ・BOE政策金利発表(11日)
- ・BOE議事録(11日)
- ・BOEインフレレポート(11日)
- ・カーニーBOE総裁、会見(11日)
- ・4月英消費者物価指数(16日)
- ・4月英生産者物価指数(16日)
- ・4月英雇用統計(17日)
- ・4月英小売売上高(18日)
- ・1-3月期英GDP・改定値(25日)

5月の見通し

月間指標カレンダー(外部リンク)

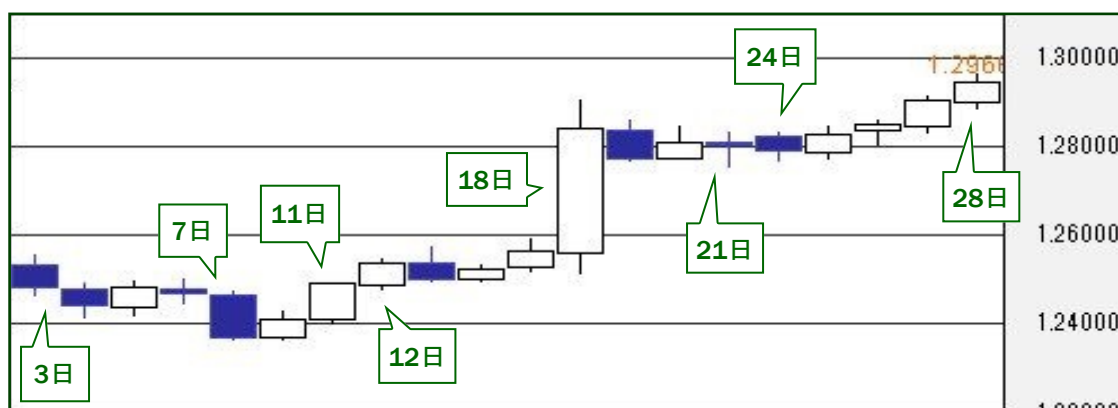
ポンド/円の4月後半の反発は目を見張るものだった。後半2週間だけで、値幅にして9円弱、率にすると6.5%を超える急激かつ大幅な切り返しを見せた。その上、ほぼ高値引けで取引を終えており、5月相場にも続伸の期待がかかるころだろう。とはいえ、ポンドにそこまでの強い買い材料がある訳ではなく、4月の上昇は「ショートカバー」が原動力になった公算が大きい。4月28日時点のシカゴ通貨先物市場における投机筋のポジション(ドルに対するポンドの持ち高)が依然として大幅な「売り超」となっていることから、もう一段の買戻しが入る余地はあるが、ポンド/円が昨年12月の戻り高値148.455円を超えて150円の大台回復をうかがうには「ショートカバー」だけではやや力不足だろう。これらの水準を突破して上昇するには円安の動きが不可欠となりそうだ。円の動向を見る上では、北朝鮮などの地政学リスクへの目配りと同時に、株や資源価格などのリスク資産の動向にも注目しておきたい。(神田)

(予想レンジ: 140.000~150.000)

GBP/USD

ポンド/ドル 4月の推移

4月のポンド/ドル相場は、1.23656～1.29663ドルのレンジで推移。月間の終値ベースでは約3.1%の上昇(ポンド高・ドル安)となった。前半は1.25ドルを挟んでもみ合ったが、メイ英首相が前倒しの総選挙を発表した18日を転機として流れが一気に上向いた。選挙によってメイ政権の基盤が強まり、欧州連合(EU)との離脱交渉が英国の有利に進むとの楽観的な見方に繋がりポンド買いが強まった。その後も、市場最高水準に積み上がったポンドのショートポジションを閉じる動きが優勢となり、28日には、昨年9月30日以来の高値となる1.29663ドルまで上昇した。



四本値

OPEN	1.25347
HIGH	1.29663
LOW	1.23656
CLOSE	1.29483

3日	英3月製造業PMIが54.2と予想(55.0)に反して前回(54.5)から低下するとポンド売りが優勢となった。
7日	「米国がシリアを攻撃」との報道を受けて「有事のドル買い」が活発化。その後、英2月鉱工業生産が前月比-0.7%、前年比+2.8%と、予想(+0.2%、+3.7%)を大きく下るとポンド売りが強まり、1.2360ドル台まで下落した。
11日	英3月消費者物価指数が前月比+0.4%、前年比+2.3%(予想:+0.3%、+2.3%)、英3月生産者物価指数が前年比+3.6%(同:+3.4%)と発表されるとポンド買いが優勢となった。その後も、リスク回避の動きから米国債利回りが低下する中、ポンド高・ドル安が進んだ。
12日	英3月雇用統計は、失業率2.2%、失業者数2.55万人増といずれも前月(2.1%、0.61万人減)から悪化した。市場は12-2月の週平均賃金が前年比+2.3%と市場予想(+2.2%)を上回った事を重視してポンド買いで反応。その後も、トランプ米大統領が「ドルは強すぎる」と発言した事を受けてドル安が進み1.2540ドル台へ続伸した。
18日	日本時間19時にメイ英首相が記者会見を行うとの報道をきっかけに、同首相が健康問題で辞任するとの思惑からポンド売りに傾いた。しかし「メイ首相は6月8日に総選挙実施の意向」と報じられると一転してポンド買いが優勢となった。その後、メイ首相は「EU離脱路線を変更できると反対派が考えるのは誤り」「今後の安定を保証するには総選挙前倒しが唯一の方法」などと述べた。地政学リスクの高まりや仏大統領選の不透明感を背景に米長期金利が大きく低下した事でドル安が進んだ事もあって、ポンド/ドルは上げ幅を拡大した。
21日	英3月小売売上高が前月比-1.8%と予想(-0.5%)を大幅に下回るとポンド売りが優勢となった。
24日	仏大統領選(第1回投票)の出口調査で、中道・独立系マクロン候補と極右・国民戦線党首ルペン候補の勝ち抜けがほぼ確実となり、反EU候補同士(ルペンVSメランション)の決選投票が避けられた事などからユーロが全面高となった。ポンド/ドルはユーロ/ポンドが上昇した影響を受けて弱含んだ。
28日	英1-3月期国内総生産(GDP)速報値は前期比+0.3%、前年比+2.1%となり、市場予想(+0.4%、+2.2%)に届かなかった。しかし、ポンドの下値は堅く、NY市場に入るとショートカバーと見られる動きが強まり1.29663ドルまで上値を伸ばし、7カ月ぶりの高値を付けた。

GBP/USD

NYダウ平均

OPEN	20665.17
HIGH	21070.90
LOW	20379.55
CLOSE	20940.51

米10年債利回

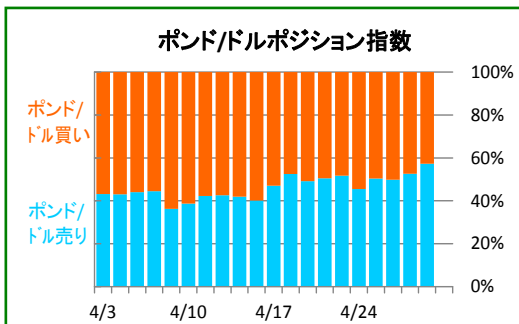
OPEN	2.3928%
HIGH	2.4036%
LOW	2.1629%
CLOSE	2.2802%

英10年債利回

OPEN	1.132%
HIGH	1.146%
LOW	0.998%
CLOSE	1.085%

4月のポジション動向

5月の英国の注目材料



- ・4月英製造業PMI(2日)
- ・4月英建設業PMI(3日)
- ・4月英サービス業PMI(4日)
- ・3月英貿易収支(11日)
- ・3月英鉱工業生産(11日)
- ・BOE政策金利発表(11日)
- ・BOE議事録(11日)
- ・BOEインフレレポート(11日)
- ・カーニーBOE総裁、会見(11日)
- ・4月英消費者物価指数(16日)
- ・4月英生産者物価指数(16日)
- ・4月英雇用統計(17日)
- ・4月英小売売上高(18日)
- ・1-3月期英GDP・改定値(25日)

5月の見通し

月間指標カレンダー(外部リンク)

5月のポンド相場の最大の見どころは11日の英中銀(BOE)「スーパー・サズデー」であろう。金融政策委員会(MPC)議事録とインフレレポートが同時に発表されるほか、その後カーニー総裁が記者会見を行う。前回3月のMPCではフォーブス委員が0.25%の利上げを主張して据え置きに反対票を投じた事が明らかとなっている。欧州連合(EU)離脱決定後も英国景気が底堅く推移する中で、インフレ高進を懸念する委員が増えてもおかしくない状況だろう。議事録で示される利上げ票が2票以上に増えていればポンド買い材料になるだろう。もっとも、インフレレポートで示されるインフレ見通しはポンド売り材料になる可能性もある。2月時点の見通しは、2017年を+2.7%で据え置いた一方、2018年を2.6%、2019年を2.4%として、それぞれを従来予想から0.1%ポイント引き下げた。これについて、カーニー総裁は「インフレ見通しを引き下げたのはポンドが上昇したことや利上げへの市場の期待が高まったから」と説明した。足元では当時よりもポンドが上昇しているため、見通しをさらに下方修正してくる可能性もありそうだ。英国のEU離脱交渉が本格化するまでの間は、BOEの金融政策がポンド相場のメイン材料になる公算であり、3か月に1度の「スーパー・サズデー」はその手掛かりが豊富に供給されるとあって市場の関心が強い。5月相場の趨勢を決定するイベントと言っても過言ではないかもしれない。(神田)

(予想レンジ: 1.26000~1.31500ドル)